

《2020年8月（通算286回）》

【日時】2020年8月20日（木）19:00～21:00（終了後はオンライン懇親会）

【会場】オンライン（Zoom）

【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて②

—スポーツは人々のライフラインとなれるか（アフリカ編）

【話題提供者】岸 卓巨（A-GOAL プロジェクト代表、一般社団法人アフリカクエスト理事、NPO 法人サロン2002 理事）

【参加者（会員・メンバー）8名】

安藤裕一（株GMSS ヒューマンラボ）、岸卓巨（A-GOAL プロジェクト代表）、小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、嶋崎雅規（国際武道大学）、茅野英一（帝京大学）、張寿山（明治大学）、中塚義実（NPO 法人サロン2002／筑波大学附属高校）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会運営委員）

【参加者（未会員）23名】

網代健人（無所属）、厚東芳樹（北海道）、雨宮知子（CHEZA）、今子由紀（クラーク記念国際高校）、金森大輔（JICA 南スーダン事務所）、上村優太（守口ローターアクトクラブ）、木村汐里（関西学院大学）、佐藤樹生（学生）、高橋旺子（NPO 職員）、竹田憲一（個人事業主）、丁岩（個人）、内藤優和（JICA アフリカ部）、中尾優子（ファーマプロダクト）、半井真（CHEZA）、花田優子（Shaplaneer）、林幸弘（株式会社リンクアンドモチベーション）、広瀬光（Peace Tech Foundation）、法貴潤子（フリーランス）、宮嶋泰子（カルティベータ）、森康弘（宇都宮市立上河内西小学校）、柳田主税（株式会社 ChiMa Sports Promotion Japan）、横山裕司（アフリカクエスト）、米田耕太郎（京都大学大学院）

【概要】

コロナ禍において、さまざまなスポーツ活動が停止している。しかし、このような難しい状況だからこそ発揮できる「スポーツの力」があると考えている。

その一例として、今回の月例会では「A-GOAL プロジェクト」について紹介する。

アフリカでは、新型コロナウイルスの感染者数が、依然として増え続けている。ロックダウンの中で多くの人が仕事を失い、毎日の食事すらままならない状況が発生している。ケニアでは、学校再開も来年1月まで延期が決まり、全生徒の留年が決定した。

そのような状況の中で、アフリカ現地の地域スポーツクラブを「ハブ」に、食糧や衛生用品を住民に届け、啓発活動を行う「A-GOAL プロジェクト」を5月16日に立ち上げた。

普段からスポーツ以外の地域貢献活動（犯罪防止のためのワークショップ、清掃活動など）を行っているアフリカの「地域スポーツクラブ」だからこそ、本当にニーズのある人に支援を届けることができるという仮説のもとプロジェクトを始めたが、これまでにケニアとナイジェリアで500世帯（約2500名）に食糧を届け、その仮説が間違っていなかったということが見えてきた。

また、アフリカ現地に直接行くことが難しい中で、A-GOAL プロジェクトでは、オンラインコミュニケーションツールを活用し、約80名の日本人メンバーと現地のサッカークラブ指導者が連携してプロジェクトを運営している。

月例会では、A-GOAL プロジェクトの紹介だけでなく、他の活動でも応用できるスポーツの役割やオンラインでのプロジェクトマネジメントの実際などについて報告された。

